



自主性・自立性を育む学校

新しい令和の時代を迎え、新緑がまぶしい季節となりました。部活動で先輩の後ろを必死に追いかけている新入生の姿に微笑ましさを感じる5月です。

さて、過日4月17日の授業参観、学年懇談会ではお集まりいただきまして、ありがとうございました。昨年度はできなかったことを今年度は可能な限り実施していきたいと考えております。よろしく願いいたします。

標題の「自主性・自立性を育む学校」は本校のめざす学校像のひとつです。突然ではありますが、東京フットボール株式会社（FC 東京）の元社長の阿久根謙司（あくねけんじ）氏のお話をご紹介します。阿久根氏は、「リーマンショックや東日本大震災後、先の見えない時代の到来に、企業には『自ら考え、変革していく人材』が求められた。」と話されています。「自立した人材が求められている」ということです。そこで、サッカーチームのFC東京では「自分で見て、考えて、動け!」と、行動指針を「自立」という一言に絞ったそうです。

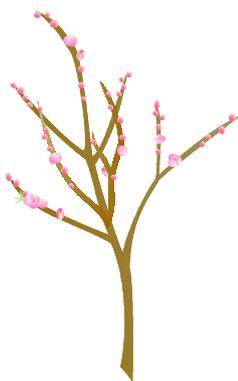
では、どうすれば人は「自立」するのか。阿久根氏は親子関係に着目して次のように話しています。親が子どもの自立を促すためには、子どもに対して「考え工夫する環境を作り、自発的な行動をおこさせるためのコミュニケーションスキル」を伸ばすことが大切である。具体的にはとにかく「やる気」を引き出すことで、親が子どもに対して「傾聴」、「共感」、「観察」、「声かけ・問いかけ」を大切にすることだと話されています。



特に、自立した子どもを「大きな木」になぞらえて、物事には決まっている”must”（…ねばならない）の部分があり、これが木の「幹」で、やる気によって生い茂るのが「枝・葉」で、ここをいかに親が伸び伸びとおい茂らせるかが大切だそうです。自立した子どもほど、この「枝・葉」の部分が大きく、幹と枝・葉がしっかりしてくると、それに伴い「根」もしっかりと張ってくるのだそうです。この

「根」が親と子の信頼関係を表すともおっしゃっています。

そして、自立を促す親子関係について大切なのが、子どもに対する親の立ち位置だそうです。「幹」の部分にばかり寄り添うような位置だと「過保護」となり枝・葉が育たず、あまり離れて遠くにいて、やりたいようにさせていたのでは「放任」となり、これもまた枝・葉が上手に育たない。一番良い親の立ち位置は「木



の上」だそうで、全体をよく見ることができる位置だそうです。良いことも、悪いことも、ある一面だけを見るのではなく、全体を見ることのできる位置が大切だと述べられています。そして最後に「親」という漢字をよく見るよう言われました。なるほど「親」という漢字は「木」の上に「立」って「見」るですね。親に限らず私たち教師もまた、教えるべきことはしっかりと教えることで太い「幹」を育てる。そして、子どもとのほど良い距離感を保ち多面的に子どもを理解し温かく見守ることで「枝・葉」となる部分を育てていく。こういったことが大切なのだと、改めて気付かされた阿久根氏のお話でした。何か参考になれば幸いです。

行事予定

1日（土）～5日（水）5連休
※事故には十分に気をつけて生活してください。

- 6日（木）内科検診（女子）13:30～
- 7日（金）PTA本部役員会
- 10日（月）委員会活動日
- 11日（火）全校朝会
- 12日（水）歯科検診（全学年）9:00～
- 13日（木）部活動保護者会18:00～
PTA合同委員会19:00～
- 18日（火）心電図検査（1年生）
- 19日（水）県東地区陸上競技会
- 22日（土）PTA奉仕作業
- 24日（月）中間テスト
- 25日（火）学年朝会
- 26日（水）生徒総会（6校時）
- 27日（木）全国学力学習状況調査（3年生）
- 31日（月）委員会活動日

気をつけよう!!!

交通事故にはくれぐれも注意しましょう。
自転車の乗り方にはくれぐれも気をつけましょう。



新型コロナウイルス感染症対策をしっかり行おう

- 1 手洗いやうがいの励行
- 2 マスクの着用
- 3 密となる場所の回避
- 4 アルコール消毒の励行

